

ESTCOMPR

キーワード説明書

-- V8.6.2 --

株式会社シーイーシーカスタマサービス

プロダクトサービス事業部

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5
JR恵比寿ビル8F

TEL:03(5789)2443 FAX:03(5789)2575
E-Mail:psupport@cec-ltd.co.jp

(空白ページ)

序.

本説明書では、ESTCOMPRで使用可能なキーワードおよびJCL例の概要を説明する。キーワードは、ABC順に記載され、構成は以下の通り。

	ページ
1. 処理別キーワード分類表	1
2. キーワード解説	2
3. 実行JCL例	9
4. TEXT処理時のキーワード設定値	10

本説明書で使用する記号：

_____ ---- 省略値
キーワードに下線部のある場合、指定されていることが省略値
下線部がない場合、無指定が省略値

[] ---- 任意選択、
いずれか1つの選択

キーワード
() ---- 省略形
{ }

英子文字 ---- 任意の英数字

ddd: (開始)位置、数値
l11: 長さ、数値
t: 文字属性、C =英数文字
X =16進数
op: 条件コード、
EQ=同じ
NE=異なる
GT=より大きい
GE=以上
LT=より小さい
LE=以下

英大文字 ---- キーワード、サブキーワード、パラメータ

(空白ページ)

1. 処理別キーワード分類表

入力処理	データ同期処理	テキスト処理	ファイル出力	表示処理
A-IDENTITY				ASCII
CONTINUE		BUFF	COPYDIFF COPYLINE COPYONTO COPYSAME COPYSPLIT	CASE
CPXEXIT CPXIFACE CPXIFACE1 CPXIFACE2			DELETE	DASH DECIMAL
DATA DESEN DESEN1 DESEN2 DIRECTORY END		FRAME		EBCDIC FLDONLY FORMAT
FIELD FIELD1 FIELD2 FILTERIN FILTEROUT FILTERIN FILTEROUT				GENFLDS
HELP=INPUT	HELP=DATA	HELP=TEXT	HELP=OUTPUT	HALT HELP=DISPLAY HEX
IDENTITY (A-IDENTITY)	KEY KEY1 KEY2		INSERT	IGNORSIN INTERLEAVE KEYONLY KILLECHO KILLRC KILLSPIE LINE LINELIM
MASK MASK1 MASK2 MODE		MLC		MAXDIFF MAXMATCH MBRHDR
SCAN SKIPUT1 SKIPUT2 STOPAFT SYSUT1 SYSUT2	SEGMENT	PRINT	REPLACE	NIBBLE PAGE PLUS PRINT
WILDCARD		SQUEEZE TEXT	SYSUT3 SYSUT3x	

(空白ページ)

2. キーワード解説

A～C0

<p>A-IDENTITY=(ddd, op, t' vv' (A-ID) [, N=name])</p>	<p>IDENTITYキーワードにA-IDENTITYを併用することによりAND条件を使用して、特定レコード毎にFIELD/MASK/WILD CARDを設定できる。(IDENTITYキーワードを参照) : 指定した対象領域に代表名を与える。この指定は、FORMAT=FIELDで利用される。</p>
<p>ASCII</p>	<p>英数字をアスキーコードで表示。</p>
<p>BUFF = 60 nnnnn</p>	<p>比較作業領域をキロバイト単位で指定 指定可能値: MODE=APPLICATIONSキーワード指定時は、32～1024、MODE=SYS時は32～16384. * DATA=CSECT時は、省略値として256が設定される</p>
<p>CASE = UPPER LOWER MIXED RAISE MONO</p>	<p>文字コードの変換レベルを指定。UPPERは英数大文字、LOWERは英小文字もしくはカタカナ文字を示す。MIXEDは併用を意味し、RAISEは英小文字を大文字に変換して比較する。MONOを指定すると文字変換は行われない。</p>
<p>CONTINUE</p>	<p>MAXDIFF指定時、その指定値に達した後も比較処理を最後まで行う。指定が無いと、処理は中止される。</p>
<p>COPYDIFF [= PAN LIB CMN MEMBER GEM IEBUPDTE OTH MEMBER [, STAMP = NO YES] [, VERS = YES NO YESHMM] [, PASS = YES NO] [, TEMP = YES NO] [, RESEQ= YES NO] [, SEQFLD=' dd1[, dd1]'])]</p>	<p>比較結果をSYSUT3ファイルに出力する場合に指定。 第一パラメータ:出力レコード形式の指定。 指定がない場合、以下のパラメータの指定はできず、追加、置換レコードを出力、PAN(VALETE)、LIB(RARIAN)、GEM、IEBUPDTE形式、もしくはMEMBER(相違メンバ名)、OTH(INSERT/DELETE/REPLACEキーワードの指定形式)の出力が可能。 MEMBERはメンバ名を出力する場合に指定する。 第二パラメータ:出力レコードの73-80バイトめに更新日付を付加しない/する。 第三パラメータ:(LIBRARIANのみ) SELカードにVERS=mmddhhmmを付加する/しない 第四パラメータ:(LIBRARIANのみ) パスワード保護の有無。 第五パラメータ:(IEBUPDTE以外) メンバ選択カードにTEMPを付加しない/する。 第六パラメータ:シーケンスフィールドを指定位置に変更しない/する。 第七パラメータ:第六パラメータがYESの場合、シーケンスフィールドを指定。</p>
<p>COPYLINE</p>	<p>COPYDIFF、COPTSAMEと一緒に指定し、出力レコードの先頭10バイトに入力レコードの相対レコード番号を付加する。</p>
<p>COPYONTO</p>	<p>COPYSAMEと共に指定し、SYSUT2で同期して一致したレコードすべてを出力ファイルに出力する。</p>

COPYSAME	(TEXT/DIRECTORY処理では、指定不可) SYSUT1とSYSUT2ファイルの同一レコードをSYSUT3 ファイルに出力。
COPYSPLIT	単一のESTCOMPR処理で一致、相違レコードを分類して 出力する。 出力DD名 出力元 分類 説明 SYSUT3A SYSUT2 一致 SYSUT1ファイルと一致 SYSUT3B SYSUT1 相違 SYSUT1のSYSUT2との相違 SYSUT3C SYSUT2 相違 SYSUT2のSYSUT1との相違 SYSUT3D SYSUT1 挿入 SYSUT1にのみ存在 SYSUT3E SYSUT2 挿入 SYSUT2にのみ存在
CPXEXIT = xxxxxxxx	ESTCOMPR出口のためのロードモジュール名を指定する
CPXIFACE = CPXIFACE xxxxxxx	インタフェース名を指定。
CPXIFACE1	CPXIFACEと同じ。SYSUT1ファイルに適用される。
CPXIFACE2	CPXIFACEと同じ。SYSUT2ファイルに適用される。
DASH = C'-' X'xx'	DATA処理では、相違バイトを示す文字を指定。 TEXT処理では、枠(FRAME)の区分け文字を指定。
DATA [[(]=CSECT [, ADCON= YES)]] NO	DATA処理 (DATA比較ロジックを使用) を行う場合、指定。 ロードモジュールの比較時、CSECT単位に指定する。 外部参照アドレスを有効(=YES)にして比較。
DECIMAL	DATA処理にてリスト左辺に表示されるレコードバイト数 を10進数で表示。
DELETE= C'xxx' xxx	COPYDIFFでOTHを使用した場合、削除レコードを指示す るカードの型を指定。例: DELETE=' / DEL'
DESEN=(ddd, t'vvvv' [, N=desen_name])	特定レコード領域を指定文字列に置き換えて比較。 : 指定した対象領域に代表名を与える。この指定は、 FORMAT=FIELDにて使用される。
DESEN1=	DESENキーワードと同じ、SYSUT1ファイルにのみ適用される。
DESEN2=	DESENキーワードと同じ、SYSUT2ファイルにのみ適用される。
DIRECTORY (DIR) [= USER] SPF PDF LOAD	区分データセットのディレクトリを比較する。パラメー タを指定しない場合、メンバ名のみを比較する。 : 16進数表示 : フォーマットして表示 : フォーマットして表示、 日付はグレゴリオフォーマット:YYMMDD : ロードモジュールのディレクトリをフォーマットして表示
EBCDIC	英数字表示をEBCDICコードで表示する。
END=(ddd, op, t'vvvv')	指定レコードで処理を打ち切る。
FLDSONLY	FIELDキーワードで指定した範囲のみを、相違表示の対象と する。

<p>FIELD=(ddd, 111 ,C END ,Z ,P ,B ,UP ,UB [,N=field_name])</p>	<p>レコード内の比較対象領域を指定。 第一パラメータ ddd:開始コラム 第二パラメータ 111:長さ、ENDを指定するとレコードの最終バイトまでを対象とする。 第三パラメータ :フィールド形式、C (英数文字)、Z (ゾーン形式)、P (パック形式)、B (二進数)、もしくは、UB/UP (符号なし)の指定ができる。 第四パラメータ :指定した対象領域に代表名を与える。この指定は、FORMAT=FIELDにて利用される。</p>
<p>FIELD1= FIELD2=</p>	<p>SYSUT1とSYSUT2の比較対象領域が異なる場合、SYSUT1/2ファイルに対してFIELD1/2を指定する。 両キーワードは、対で指定する。 指定限界数は、約800。</p>
<p>FILTERIN= (FIN) ([MEMBER,] M, CSECT, d1[-d2], op, t' vvvv' [,N=filter_name])</p>	<p>特定位置、または範囲に特定文字列を含むレコード/メンバ/CSECTを比較対象とする。 最大約800まで指定可能。 第一パラメータ:(省略時は、レコードが対象となる)選択対象をMEMBER、M(メンバ名)、CSECT(CSECT名)の形式で指定 第二パラメータ:d1[-d2], op, t' vvvv' 開始位置(d1)、範囲(-d2)、条件(op)、検索文字列(t' vvvv')を指定。 第三パラメータ:指定フィルタに代表名を与える。 複数指定した場合は、AND(論理積)条件となる。</p>
<p>FILTEROUT= (FOUT)</p>	<p>FILTERINキーワードに対し、比較処理から除外する対象を指定する。FILTERINキーワードを参照。</p>
<p>FILTORIN= (FORIN)</p>	<p>FILTERINと同じ。 複数指定の場合は、OR(論理和)条件となる。</p>
<p>FILTOROUT= (FOROUT)</p>	<p>FILTEROUTと同じ、 複数指定の場合は、OR(論理和)条件となる。</p>
<p>FRAME= NUM YES NO</p>	<p>TEXT処理において、相違レコードを枠で囲んで表示させる場合に指定。NUMは、コラム数も同時に表示する。</p>
<p>FORMAT= xy (F) xyF xyS FIELD SMART</p>	<p>DATA比較処理において、相違レコードの表示形式を指定 x : 0 - 1行32バイト(左辺:16進、右辺:10進) 1 - 1行100バイト(英数字) 2 - 1行100バイト(DITTOフォーマット:英数字と16進を上下に表示) y : 1 - 両レコードとも全内容を表示。 2 - SYSUT1の全内容とSYSUT2の相違箇所を含む行 3 - 両レコードとも相違箇所を含む行のみ表示。 4 - 表示内容は1-3に対応して同じ、 5 - INTERLEAVEキーワードで指定された値の行 6 - ずつ組にして表示する。 xyS/xyM は以下の指定を同時指定する場合に利用する。 SMART : 数値フィールドを形式化(表示可能形式)する。 FIELD : 他のキーワードでN=代表名を指定した場合、その代表名を相違リストに表示させる。</p>

GENFLDS	IDENTITY/FIELD/MASKで指定された範囲を、目安として表示
HALT= COND YES NO	SYSINカードの文法エラーに対して、 COND : エラーがある場合、処理を中止。 YES : キーワードの正誤に関わらず、処理を行わない。 NO : エラーキーワードは無視して処理。
HELP [= ALL] DATA DISPLAY INPUT OUTPUT TEXT	リスト上に各キーワードの簡単な指定方法を表示。 ALL :すべてのキーワード DATA :データ同期処理キーワード DISPLAY:表示処理キーワード (*) INPUT :入力処理キーワード OUTPUT :ファイル出力(処理)キーワード TEXT :テキスト処理キーワード (*) 1. 処理別キーワード分類表参照
HEX	DATA処理において、表示されるレコードが複数行に分割される場合、左辺に表示されるバイト数表示を16進で表示する。 MODE=SYSTEMSを指定した場合は、自動的に設定される。
IDENTITY=(ddd, op, t' vv' (ID) [, BREAK] [, N=name])	特定レコードごとにFIELD/MASK/WILDCARDを設定する場合に指定。 :レコードを次の処理に渡さない。 :指定した対象領域に代表名を与える。この指定は、FORMAT=FIELDで利用される。
IGNORSIN	パック形式のデータのサイン(符号-'C'または'F')を無視する。
INTERLEAVE=nn (ILV)	FORMAT指定において、yの値が4~6の場合、出力リスト上の相違レコードを指定数(nn)ずつ組にして表示する。
INSERT	COPYDIFFでOTHを使用した場合、挿入レコードを指示するカードの型を指定。例: INSERT=' / INS'
KEY=(ddd, l11 KEY1 KEY2 [,C] ,Z ,P ,B ,UP ,UB [,A] ,D ,R [, N=desan_name])	両ファイルのレコードをマッチング(同期)させるためのキー領域を指定(DATA比較処理)。 ddd:開始位置 l11:キー長 第3パラメータ:領域属性を指定、 C=文字、Z=ゾーン数、P=パック数、B=バイナリ数 UP=符号なしパック、UB=符号なしバイナリ 第4パラメータ:並び順 A=昇順、D=降順、R=ランダム(並んでいない) 複数指定限界:最大40 KEY1=、KEY2=キーワードは、両ファイルのキー領域が異なる場合に指定する。 :指定した対象領域に代表名を与える。この指定は、FORMAT=FIELDにて利用される。
KEYSONLY	DATA比較処理においてKEYx=キーワード指定時、キー値の合致しなかったレコードに対して、キーを含む行のみ表示。

KILLRC [=NO]	リターンコードを強制的に0にする。 リターンコードを強制的に0にしない。
KILLECHO	システム省略値に定義されていないCPX0xIメッセージを抑止することを指定する。
KILLSPIE [= YES] NO	SPIE処理 (ABEND処理対応) を行わない。 MSP、VOS3のみKILLSPIE指定が省略値。
LINE=(<u>32</u> nn [, <u>HORIZONTAL</u>]) HOR ALPHA VERTICAL VER	相違リストに表示するレコードの表示形態を指定。 nn: 一行に表示するバイト長 左に32バイト16進、右に英数字表示。(nn=32を設定) " 英数字表示。 DITTO形式で表示。(英数字で一行、その下二行で16進) " "
LINELIM= nn	レコード毎の最大表示行を指定する。省略値は0で行数制限しない。
MASK=(ddd, 111 END , <u>C</u> , <u>Z</u> ,P ,B ,UP ,UB [, N=マスク名])	レコード内の比較対象外領域を指定。 第一パラメータ ddd: 開始コラム 第二パラメータ 111: 長さ、ENDを指定するとレコードの最終バイトまでを対象とする。 第三パラメータ : フィールド形式、 C=文字、Z=ゾーン数、 P=パック数、B=バイナリ数、Uxは符号なし 第四パラメータ : 指定した対象領域に代表名を与える。 この指定は、FORMAT=FIELDにて利用される。
MASK1= MASK2= (MASKキーワード参照)	SYSUT1とSYSUT2の比較対象領域が異なる場合、SYSUT1/2 ファイルに対してMASK1/2を指定する。 両キーワードは、対で指定する。 指定限界数は、約800。
MAXDIFF= <u>999999999999</u> Nnnnn	相違レコードの最大表示件数を指定。 CONTINUEキーワードの指定がない場合、比較処理は指定件数を表示した時点で中止される。
MAXMATCH= <u>999999999999</u> nnnnn	データ比較処理において、キーの合致した相違データの最大表示数を指定。 CONTINUEキーワードの指定がない場合、比較処理は指定件数を表示した時点で中止される。
MBRHDR= <u>YES</u> COND NO MATCH	ディレクトリを持つデータセット全体を比較する際、各メンバーごとの表示方法を指定。 YES : 1メンバー1ページで表示。 COND : メンバ名が一致し内容の異なるメンバー、および一致しないメンバー名を表示。 NO : 各メンバーの相違内容は表示せず、相違数のみ表示 MATCH : メンバ名の一致する相違メンバーの内容のみ表示。

MODE=	<u>APPLICATIONS</u> APL SYSTEMS SYS	バイト数の計算を指定。 APPLICATIONS/APL: レコード先頭を1バイト目として計算 SYSTEMS/SYS : " 0バイト目として計算 し、可変長のRDWをレコードに含む。
MLC=	<u>5</u> nn	1～40の範囲で、相違判断のために参照されるレコード数を指定する。
NIBBLE		DATA比較処理において、相違箇所を半バイト単位で表示。
PAGE=	<u>58</u> nn	出力リストの1ページの行数を指定(10～99999999)。
PLUS=	<u>C'+'</u> X'vv'	DATA比較処理でのレコードの過長部分、およびTEXT比較処理での枠の囲み文字を示す文字を指定。
PRINT=	FULL MLC <u>MATCH</u> NOMATCH <u>MISMATCH</u> NOMISMATCH	表示レコードを決定する。 矛盾しないキーワードを複数指定可能。 SYSUT1の全レコード、およびSYSUT2の相違レコード SYSUT1/SYSUT2の相違レコード、および相違レコード前後の数レコード(MLCキーワードでの指定数) KEY値が合致し、相違のあるレコードを表示する。 " " 表示しない。 KEY値の合致しないレコードを表示する。 " 表示しない。
REPLACE=	{C'xxx'} xxx	COPYDIFFでOTHを使用した場合、置換レコードを指示するカードの型を指定。例: REPLACE='/ REP'
SCAN		フィルタキーワードで指示された文字列をSYSUT1の入力ファイルから検索する。記述された除外フィルタ(FILTERIN, FILTEROUT)や選択フィルタ(FILTORIN, FILTOROUT)のルールが各レコードに適用され、そのレコードがフィルタテストを通れば表示される。
SEGMENT=(ddd, EQ, t'vvvv' (SEG)	[, (<u>A</u> , ddd, 111)] D R	データベースを比較する際、その制御領域を指定する。 ddd: 開始コラム 111: 長さ t : 文字タイプ A, D, R : 並び順 (KEY参照)
SKIPUT1=nn SKIPUT2=nn		SYSUT1ファイルの最初のnn件のレコードを読み飛ばす。 SYSUT2 " "
STOPAFT=	<u>999999999999</u> Nn	両ファイルから読み込む最大レコード件数を指定する。
SQUEEZE=	C'v' (SQZ) X'vv'	特定文字を比較処理前に除去する。 例: SQZ=C' ' ブランク を無視する。

SYSUT1= SYSUT2=	DUMMY QSAM ISAM VSAM PDS	SYSUT1/SYSUT2ファイルの編成を指定した形式で処理する。
インタフェース使用時		
SYSUT1=(SYSUT2=	PAN LIB OTH	インタフェースを使用する際のファイル情報を与える。 PAN: PANVALET、LIB: LIBRARIANもしくはGEM、 OTH: その他のインタフェースを使用。
	[, MEMBER =xxx] M	メンバ名を指定。
	[, INCLUDE= <u>NO</u> YES]	対象メンバ内でINCLUDEしている内容を比較しない。 // 比較する。
	[, DDNAME=xxx]	対象ライブラリを指定したDD名を指定する。
	[, LEVEL=n]	世代番号 (LIBRARIANのみ)
	[PARM='xxx']	インタフェースに渡すパラメータを指定。
SYSUT3= SYSUT3x	DUMMY QSAM VSAM ISAM ={DISK }, BLKSIZE= {80}, RECFM={F} [B] [, LRECL=nn] {DUMMY }	SYSUT3ファイルの編成を指定した形式で処理する。 ESTCOMPR が決定した SYSUT3x の属性 (DSORG) を 無視する。 xにはA, B, C, D, C, Eが適用される。
TEXT [= [¥]]	TEXT比較処理時に指定。 ALC BAL C CLIST COBOL FORTRAN JCL NATURAL PANEL PASCAL PL1 PL/1 PLI PL/I REPORT REXX RPG SCRIPT XML .
WILDCARD=	<u>C'.'</u> t'vv'	指定文字列を非比較文字 (全ての文字と同値) とする。

(空白ページ)

3. 実行JCL例

◎PDS（区分編成）の1メンバとPS（順編成）の比較

```
//JOB
//COMPARE EXEC PGM=ESTCOMPR
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=ESTCOMPR.LOADLIB
//SYSUT1 DD DISP=SHR, DSN=PO.DATASET(MEMBER1) <==比較対象ファイル
//SYSUT2 DD DISP=SHR, DSN=PS.DATA <==比較対象ファイル
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
TEXT=COBOL <==条件キーワード
/* (比較ファイルをCOBOL
ソースとして比較)
```

◎GEMファイルの比較（インタフェース使用、
GEM-富士通株のライブラリ管理ユーティリティ）

```
//JOB
//COMPARE EXEC PGM=ESTCOMPR
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=ESTCOMPR.LOADLIB
//MASTER DD DISP=SHR, DSN=LIB.DATASET.NAME <==比較対象GEMライブラリ
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
SYSUT1=(LIB, M=JCL1)
SYSUT2=(LIB, M=JCL2)
TEXT=JCL <==条件キーワード
/*
```

◎PDSディレクトリの比較

```
//JOB
//COMPARE EXEC PGM=ESTCOMPR
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=ESTCOMPR.LOADLIB
//SYSUT1 DD DISP=SHR, DSN=PO.DATA1 <==比較対象ファイル
//SYSUT2 DD DISP=SHR, DSN=PO.DATA2 <==比較対象ファイル
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DIR=LOAD /* ロードモジュールディレクトリの比較 */ <==条件キーワード
/*
```

(空白ページ)

4 . TEXT処理時のキーワード設定値

キーワード オプション	CASE	LINE	FIELD (*1)	MLC	FRAME	SQUEEZE
無指定	UPPER	32, HORIZONTAL		5		
ALC	MIXED	80, ALPHA	1, 72, C (0, 72, C)	2	NUM	C' '
BAL C	MIXED	80, ALPHA	1, 72, C (0, 72, C)	2	NUM	C' '
CLIST	MIXED	80, ALPHA	9, END (12, END)	2	NUM	C' '
COBOL	MIXED	80, ALPHA	7, 66, C (6, 66, C)	5	NUM	C' ' C', '
JCL	MIXED	80, ALPHA	1, 72, C (0, 72, C)	2	NUM	C' '
PANEL	MIXED	80, ALPHA		5	NUM	
FORTRAN PL1 PL/1 PLI PL/I	MIXED	80, ALPHA	2, 71, C (1, 71, C)	5	NUM	C' '
REPORT	UPPER	133, ALPHA		3		
RPG	MIXED	80, ALPHA	2, 65, C (1, 65, C)	5	NUM	C' '
SCRIPT	MIXED	133, ALPHA		3	NUM	C' '

*1 : "MODE=SYSTEMS"指定時の値

*注意 : TEXT=キーワードで設定された各キーワード値は、MLC、FRAME以外は変更不可